

2024（令和 6）年度後期
教学改善のための授業評価アンケート
報告書

大阪成蹊短期大学

調査概要

授業評価アンケート結果

集計データ

調査票

調査概要

1) 調査目的

個々の授業に対して学生の率直な意見を聴取・理解し、学生にとって分かり易く、学修成果の得易い教育活動が行えるよう、授業の充実・改善、授業法の開発に資することを目的とする。

2) 調査項目

<一般科目>

- ・回答者の基本属性(学籍番号、所属学科、学年、性別、学生区分)
- ・「授業への学生の取り組み」に関する項目(5問)
- ・「授業内容と授業の進め方」に関する項目(15問)
- ・「教育環境」に関する項目(2問)
- ・「授業を通して得られたこと」に関する項目(8問)
- ・自由記述項目(1問)

<ピアノ科目>

- ・回答者の基本属性(学籍番号、所属学科・コース)
- ・「授業への学生の取り組み」に関する項目(5問)
- ・「授業内容と授業の進め方」に関する項目(10問)
- ・「授業を通して得られたこと」に関する項目(8問)
- ・自由記述項目(1問)

3) 調査対象

本学の2024(R6)年度後期開講の全授業(※ピアノ科目以外の10名未満のクラス、および、13週目までに終了するクラスについては、担当教員の任意で実施)、およびこれらの授業を履修している全学生

4) 調査方法

質問紙(マークシート)とWEBアンケートシステムを併用して調査を実施した。

質問紙を用いた実施手順は、下記の通り。

- ①各授業の終了前15分程度を使用する。
- ②質問紙の配付・回収は、教員と、教員が指名した学生2名が協力して行う。
- ③回答時間は、授業時間終了2分前までを目安とする。
- ④質問紙の配付後は、教員は教室内で待機し、質問紙の回収を確認する。
- ⑤指名学生は質問紙を回収後、回収用封筒に封入・封緘し、教務課に提出する。

5) 調査期間

2024(R6)年12月20日(金)～2025(R7)年1月20日(月)(※原則、授業の13週目に実施)

6) 調査主体

大阪成蹊短期大学

7) 調査実施率と有効回答率

◆科目ベース

		対象科目数	実施科目数	調査実施率
配当 所属	生活デザイン学科	25 科目	25 科目	100.0 %
	調理・製菓学科 製菓コース/FCコース	1 科目	1 科目	100.0 %
	調理・製菓学科 調理コース/製菓コース	1 科目	1 科目	100.0 %
	調理・製菓学科 調理コース/製菓コース/FCコース	2 科目	2 科目	100.0 %
	調理・製菓学科 調理コース	21 科目	21 科目	100.0 %
	調理・製菓学科 製菓コース	14 科目	14 科目	100.0 %
	調理・製菓学科 FCコース	7 科目	7 科目	100.0 %
	栄養学科	33 科目	33 科目	100.0 %
	幼児教育学科	142 科目	142 科目	100.0 %
	観光学科	23 科目	23 科目	100.0 %
	グローバルコミュニケーション学科	11 科目	11 科目	100.0 %
	経営会計学科	32 科目	32 科目	100.0 %
	共通科目	22 科目	22 科目	100.0 %
	教職科目	3 科目	3 科目	100.0 %
	司書課程科目	7 科目	7 科目	100.0 %
調査 方法	対面調査	340 科目	340 科目	100.0 %
	遠隔調査	4 科目	4 科目	100.0 %
2024(R6)後期 計		344 科目	344 科目	100.0 %

◆学生ベース

		延べ履修者数	延べ有効回答者数	有効回答率
所属 学科 等	生活デザイン学科	691 人	532 人	77.0%
	調理・製菓学科 調理コース	643 人	599 人	93.2%
	調理・製菓学科 製菓コース	585 人	501 人	85.6%
	調理・製菓学科 FCコース	106 人	89 人	84.0%
	栄養学科	1,192 人	1,061 人	89.0%
	幼児教育学科	3,110 人	2,725 人	87.6%
	観光学科	750 人	602 人	80.3%
	グローバルコミュニケーション学科	131 人	114 人	87.0%
	経営会計学科	852 人	725 人	85.1%
	(所属学科等不明、その他、端数調整)	62 人	87 人	
調査 方法	対面調査	7,505 人	6,620 人	88.2%
	遠隔調査	617 人	415 人	67.3%
2024(R6)後期 計		8,122 人	7,035 人	86.6%

※「延べ履修者数」は、学生1名が複数の調査対象科目に履修登録している場合、履修科目ごとに1名としてカウントした。

※「延べ有効回答者数」は、学生1名が調査期間中に複数の調査対象科目に出席し、且つ、アンケート用紙に回答した場合、回答した科目ごとに1名としてカウントした。ただし、アンケート用紙に1問も回答がない(回答者の基本属性を含む。自由記述は除く)ケースについては、無効回答として集計対象から除外した。

8) 調査結果の活用

アンケート結果はプロジェクトチームによって分析され、教学改革会議において報告された。また、授業ごとのアンケート結果は担当の教員に戻され、各教員はその結果を受けて授業実施報告書を作成した。

本学では、教学改革会議のプロジェクトチームが中心となり、各学部・学科、FD委員会、教務係などと連携しながら、授業評価アンケートの結果を授業改善へとつなげていく。

授業評価アンケート結果

◆経年比較

※30問中「1」または「5」の解答が29以上のケースは除いている。

※履修者数10名未満の科目は除いている。

	2023 後期		2024 前期		2024 後期	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
I. 授業への学生の取り組み						
I-1. この授業への出席（参加）状況	3.80	1.18	4.11	1.11	3.85	1.20
I-2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	4.21	0.93	4.18	1.04	4.14	1.02
I-3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたり平均学習時間（授業時間を除く）	1.51	0.92	1.45	0.86	1.55	0.95
I-4. この授業の難易度（自分にとって）	3.42	0.73	3.45	0.77	3.42	0.75
I-5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	2.45	1.21	2.55	1.20	2.50	1.22
II. 授業内容と授業の進め方						
II-①-1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	4.23	0.88	4.27	0.94	4.23	0.93
II-①-2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	4.24	0.87	4.28	0.92	4.24	0.92
II-①-3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	4.25	0.85	4.30	0.91	4.26	0.92
II-①-4. 教員は学びを深める方法（授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など）を教えていた。	4.26	0.84	4.30	0.90	4.27	0.90
II-①-5. 教員は学生の授業参加（質問、個人・共同作業、意見交換、議論、発表など）を促していた。	4.30	0.82	4.34	0.87	4.30	0.88
II-①-6. 学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック（対応・意見・評価など）をしていた。	4.30	0.82	4.33	0.86	4.30	0.87
II-①-7. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	4.32	0.78	4.36	0.84	4.33	0.84
II-①-8. テキストや配布資料は適切で分かりやすかった。	4.27	0.84	4.31	0.88	4.27	0.89
II-①-9-1. （講義・演習科目の場合）黒板やスライド資料（パワーポイントなど）は適切で分かりやすかった。 II-①-9-2. （実技・実験・実習科目の場合）教員による実演や実習等の説明は分かりやすかった。	4.28	0.82	4.33	0.87	4.28	0.88
II-①-10. 教員の授業に対する熱意を感じた。	4.37	0.76	4.41	0.81	4.34	0.84
II-①-11. 教員は授業の準備を十分にしていた。	4.39	0.73	4.45	0.78	4.37	0.80

Ⅱ-①-12. 教員は学生がマナーを守るよう指導していた。	4.33	0.78	4.38	0.82	4.31	0.86
Ⅱ-①-13. クラス全体が集中して学べるように教員が指導していた。	4.31	0.79	4.36	0.84	4.29	0.87
Ⅱ-①-14. 教員はよい授業となるよう授業方法や授業環境の改善に取り組んでいた。	4.30	0.80	4.34	0.86	4.29	0.87
(該当者のみ回答) Ⅱ-①-15. 遠隔授業では教員は授業ツール(Classroomなど)を適切に使用していた。	4.30	0.84	4.30	0.92	4.30	0.89
(該当者のみ回答) Ⅱ-②-1. 対面授業では適切なICT環境(Wi-Fi, PCなど)が整っていた。	4.37	0.78	4.42	0.83	4.33	0.85
(該当者のみ回答) Ⅱ-②-2. 対面授業では適切な教室環境(空調、プロジェクタなど)が整っていた。	4.36	0.80	4.41	0.84	4.33	0.85
Ⅲ. 授業を通して得られたこと	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
Ⅲ-1. この分野の専門的知識や技能が身についた。	4.34	0.76	4.38	0.80	4.33	0.82
Ⅲ-2. 学習力や思考力が高まった。	4.30	0.78	4.33	0.82	4.31	0.83
Ⅲ-3. 知的好奇心や探究心が高まった。	4.27	0.80	4.30	0.86	4.29	0.85
Ⅲ-4. 考え方や社会的視野が広がった。	4.27	0.80	4.31	0.85	4.29	0.84
Ⅲ-5. コミュニケーションする力(他人の意見を聞き、自分の意見を適切に表現する力)が高まった。	4.22	0.85	4.22	0.93	4.23	0.90
Ⅲ-6. シラバスに明記されている本授業における到達目標(知識、技能、態度など)を達成できた。	4.20	0.82	4.20	0.89	4.24	0.86
Ⅲ-7. これから生きていくうえで役立つと思う。	4.34	0.76	4.41	0.79	4.34	0.81
Ⅲ-8. 全体として、この授業を受けて満足した。	4.33	0.79	4.38	0.83	4.32	0.85

2023年度後期、2024年度前期と比較して、各項目の平均値、標準偏差ともに大きな変化は見られない。教員の「授業内容と授業の進め方」について学生から高く評価されており、また、学生が「授業を通して得られたこと」についての評価も高い水準を維持している。教員が授業内容を充実させていること、また、学生もその授業内容を満足できるものとして受け止めていることが窺える。

「授業への学生の取り組み」の「Ⅰ-①この授業への出席(参加)状況」について、2024年度前期より0.26減少している。この項目に関して例年、同じ年度の前期と後期を比較すると同様の傾向がみられる。

◆条件による「授業運営」尺度、「学修達成」尺度の違い

アンケート項目のうち

Ⅱ-①-1からⅡ-①-14までの平均を「授業運営」尺度とする。これは、教員の授業に対する工夫や熱意などを示す指標である。また、Ⅲ-1からⅢ-8までの平均を「学修達成」尺度とする。これは、学生が専門知識や思考力、コミュニケーション能力などを身につけたかどうかを示す指標である。

授業運営 学修達成 * 学科

所属学科	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
生活デザ	4.13	0.96	318	4.10	0.89	527
調理・製菓	4.30	0.80	616	4.39	0.73	1160
栄養	4.13	0.94	575	4.20	0.90	1033
幼児教育	4.31	0.83	1395	4.33	0.78	2469
観光	4.46	0.71	425	4.48	0.67	594
GC	4.45	0.57	42	4.19	0.73	61
経営会計	4.14	0.83	431	4.18	0.78	716
合計	4.27	0.84	3802	4.29	0.80	6560

どの学科においても、授業運営の評価と学修達成の評価はよく似た傾向にあり、どちらも全体的に良好な水準にある。観光学科においては両評価とも他学科と比較して高く、授業設計が効果的であったと考えられる。学生数が少ないこともあり、GC学科の授業運営の評価より学修達成の評価が低く表れた。

授業形態

授業運営 学修達成 * 授業形態

授業形態	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
講義	4.26	0.84	1883	4.27	0.81	3190
演習	4.23	0.87	1526	4.26	0.81	2618
実技・実験・実習	4.45	0.69	439	4.51	0.63	836
合計	4.27	0.84	3848	4.30	0.80	6644

授業規模

授業運営 学修達成 * 授業規模

授業規模	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
小 (11~19)	4.44	0.68	539	4.39	0.67	943
中 (20~39)	4.31	0.82	2571	4.32	0.78	4589
大 (40~79)	4.36	0.72	450	4.35	0.73	753
特大 (80~)	3.42	1.00	288	3.59	1.02	359
合計	4.27	0.84	3848	4.30	0.80	6644

学年

授業運営 学修達成 * 学年

学年	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
1 回生	4.25	0.85	2304	4.30	0.79	3876
2 回生	4.32	0.82	1520	4.30	0.79	2740
3 回生以上・不明	4.75	0.50	4	4.16	0.94	12
合計	4.27	0.84	3753	4.30	0.80	6513

性別

授業運営 学修達成 * 性別

性別	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
男性	4.44	0.74	278	4.38	0.76	389
女性	4.26	0.85	3431	4.29	0.80	6046
その他/答えたくない	3.31	0.90	17	4.04	1.14	46
合計	4.27	0.84	3726	4.30	0.80	6481

教員区分

授業運営 学修達成 * 教員区分

教員区分	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
専任	4.34	0.80	2370	4.38	0.74	4033
非常勤	4.16	0.89	1478	4.16	0.86	2611
合計	4.27	0.84	3848	4.30	0.80	6644

授業形態では、学生数に大きな差はあるが「講義」「演習」と比較して、「実技・実験・実習」の学修達成の評価が高い。実体験を通じた学びが学生の専門知識や技術が身についたとの評価に繋がることが窺える。

授業規模では、小規模人数(11～19人)の授業において、標準偏差も小さく、授業運営・学修達成の評価も高い。

教員区分については、専任教員の方が非常勤講師よりも授業運営・学修達成の評価がともに高い。

◆相関分析（全体）

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.19	—					
I-3 学習時間	0.04	0.13	—				
I-4 難易度	-0.01	-0.04	0.09	—			
I-5 シラバス	0.00	0.18	0.24	-0.02	—		
授業運営	-0.02	0.35	0.04	-0.22	0.21	—	
学修達成	0.01	0.38	0.06	-0.23	0.20	0.92	—

本報告書では質問 I の各項目と、授業運営の評価および学修達成の評価との相関も求め、相関係数が $r=.20$ 以上の箇所に網掛けをした。

シラバスについてみると、2024年度前期と比較して、授業運営・学修達成それぞれとの相関が若干強くなっている（授業運営 $r=.18 \rightarrow r=.21$, 学修達成 $r=.19 \rightarrow r=.20$ ）。また、学習時間とシラバスについても前回より正の相関が強くなっている（ $r=.18 \rightarrow r=.24$ ）。シラバスを活用すると学習時間がやや長くなる傾向がみられる。これは全学的なシラバスの充実に向けての取り組みの効果が少しずつ表れているのではと考えられる。

授業に対して難しさを感じると、授業運営と学修達成の評価は下がる傾向にあることが示されている（授業運営 $r=-.22$, 学修達成 $r=-.23$ ）また例年通り、学生が熱心に授業参加しているほど、授業運営や学修達成の評価が高い傾向にある（ $r=.35$, $r=.38$ ）。また授業運営と学修達成の評価には強い正の相関が認められる（ $r=.92$ ）。

授業評価アンケート結果（ピアノ科目）

◆経年比較

	2023 後期		2024 前期		2024 後期	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
I. 授業への学生の取り組み						
I-1. この授業への出席状況	3.76	1.22	4.16	1.05	3.91	1.15
I-2. この授業では、話を熱心に聴き、積極的に取り組んだ。	4.40	1.00	4.57	0.87	4.34	1.08
I-3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたり平均学習時間（授業時間を除く）	2.07	1.10	2.08	1.17	2.02	1.19
I-4. この授業の難易度（自分にとって）	3.41	0.60	3.37	0.65	3.35	0.69
I-5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	2.36	1.28	2.50	1.22	2.14	1.15
II. 授業内容と授業の進め方						
II-1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	4.55	0.76	4.71	0.58	4.66	0.61
II-2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	4.61	0.72	4.74	0.59	4.68	0.64
II-3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	4.58	0.72	4.68	0.62	4.61	0.68
II-4. 教員は学びを深める方法（授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など）を教えていた。	4.62	0.69	4.72	0.56	4.66	0.64
II-5. 学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック（対応・意見・評価など）をしていた。	4.63	0.68	4.74	0.54	4.68	0.60
II-6. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	4.60	0.68	4.74	0.55	4.66	0.62
II-7. 教員による実演の説明は分かりやすかった	4.57	0.78	4.71	0.61	4.67	0.60
II-8. 教員の授業に対する熱意を感じた。	4.62	0.68	4.76	0.51	4.69	0.58
（該当者のみ回答）II-9. 対面授業では適切な教育設備（ネット・空調・プロジェクターなど）が整っていた。	4.51	0.82	4.63	0.73	4.64	0.66
（該当者のみ回答）II-10. 遠隔授業では教員は授業ツール(Classroom など)を適切に使用していた。	4.51	0.87	4.62	0.74	4.45	0.96
III. 授業を通して得られたこと						
III-1. ピアノ技能が身についた。	4.63	0.65	4.73	0.51	4.65	0.55
III-2. 楽曲の理解力が高まった。	4.57	0.70	4.70	0.57	4.58	0.63

Ⅲ-3. 音楽に対する知的好奇心や探究心が高まった。	4.51	0.74	4.63	0.62	4.50	0.70
Ⅲ-4. 音楽に関する考え方や社会的視野が広がった。	4.45	0.79	4.58	0.69	4.48	0.71
Ⅲ-5. 表現する力が高まった。	4.51	0.75	4.64	0.63	4.53	0.68
Ⅲ-6. シラバスに明記されている本授業における到達目標（知識、技能、態度など）を達成できた。	4.40	0.81	4.52	0.72	4.37	0.79
Ⅲ-7. これから生きていくうえで役立つと思う。	4.59	0.72	4.73	0.52	4.61	0.59
Ⅲ-8. 全体として、この授業を受けて満足した。	4.62	0.65	4.72	0.55	4.65	0.59

※23問中「1」または「5」の解答が22以上のケースは除いている。

※全ての科目が履修者数10名未満であり、それを用いて分析を行っている。

授業満足度は4.6を超えており、少人数での丁寧な授業が学生の学修達成感につながっていることが推察される。

◆相関分析

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.22	—					
I-3 学習時間	0.10	0.15	—				
I-4 難易度	-0.07	0.04	0.00	—			
I-5 シラバス	-0.16	0.09	0.10	-0.01	—		
授業運営	0.11	0.12	-0.01	-0.13	0.08	—	
学修達成	0.01	0.16	0.15	-0.24	0.16	0.86	—

本報告書では相関分析も行い、相関係数が $r=0.20$ 以上の箇所に関係を網掛けをした。

一般授業のパターンと異なる箇所については、短期大学の場合いずれも10人未満の小人数であったためと考えられる。

出席率が高い学生は授業に対して熱心に取り組む傾向が窺える ($r=0.22$)。一方で、ピアノへの苦手意識を持つ学生が増えていることもあり、授業の難易度と学修達成の評価には負の相関が認められる ($r=-0.24$)。難しさを感じると学修達成の評価は低くなる傾向にある。また、一般の授業と同様に授業運営の評価と学修達成の評価には強い正の相関が認められる ($r=0.86$)。

教学改善のための授業評価アンケート

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

このアンケートは、教学の改善充実を図ることを目的にしています。調査の回答内容が成績に影響することはありません。この科目のこれまでの授業を振り返り、該当する回答選択肢にマーク（数字を塗り潰し）してください。

学籍番号の記入は、提出の有無や提出間違いの確認のためであり、回答者を特定するためではありません。学籍番号の情報は担当教員には提供されません。

＜学籍番号＞（二重枠線内に学籍番号（数字7桁）を記入し、同じ番号の枠内をマークしてください。）

①	①	①	①	①	①	①	← 0
②	②	②	②	②	②	②	← 1
	③	③	③	③	③	③	← 2
	④	④	④	④	④	④	← 3
	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	← 4
	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	← 5
	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	← 6
	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	← 7
	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	← 8
							← 9

【記入上の注意】

- ① 原則としてHB以上の鉛筆等を使用し、該当番号の枠内を濃く完全に塗り潰してください。
- ② 訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。
- ③ 回答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

＜良い例＞ ● ＜悪い例＞ ○ ● ● ●

授業科目名	
教員名	
曜日・時限	曜 限

大学	① 経営学部 ② 芸術学部 ③ 教育学部 ④ 国際観光学部 ⑤ データサイエンス学部 ⑥ 看護学部
大学院	⑦ 教育学研究科
短大	⑧ 生活デザイン学科 ⑨ 調理・製菓学科 調理コース ⑩ 調理・製菓学科 製菓コース ⑪ 調理・製菓学科 フードコーディネートコース ⑫ 栄養学科 ⑬ 幼児教育学科 ⑭ 観光学科 ⑮ グローバルコミュニケーション学科 ⑯ 経営会計学科
学年	① 1年生 ② 2年生 ③ 3年生 ④ 4年生 ⑤ 5年生以上
性別	① 男性 ② 女性 ③ その他（または答えたくない） 学生区分 ① 一般学生 ② 留学生

I 授業への学生の取り組み

1. この授業への出席（参加）状況	① 4回以上欠席（4回以上不参加） ② 3回欠席（3回不参加） ③ 2回欠席（2回不参加） ④ 1回欠席（1回不参加） ⑤ 全回出席（全回参加）
2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	① そう思わない ② あまりそう思わない ③ どちらともいえない ④ ややそう思う ⑤ そう思う
3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたりの平均学習時間（授業時間を除く）	① 1時間未満 ② 1～2時間未満 ③ 2～3時間未満 ④ 3～4時間未満 ⑤ 4時間以上
4. この授業の内容は私にとって	① 簡単すぎた ② やや簡単だった ③ 適切だった ④ やや難しかった ⑤ 難しすぎた
5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	① 全く活用しなかった ② あまり活用しなかった ③ どちらともいえない ④ 活用した ⑤ とても活用した

●以下の項目について、該当するものを選んでください。

II-① 授業内容と授業の進め方

	そう 思わ ない	あ ま り そ う 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	①	②	③	④	⑤
2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
4. 教員は学びを深める方法（授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など）を教えていた。	①	②	③	④	⑤

～裏面も回答してください～

II-① 授業内容と授業の進め方（続き）

	そう 思わ ない	あ ま り そ う 思 わ ない	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
5. 教員は学生の授業参加（質問、個人・共同作業、意見交換、議論、発表など）を促していた。	①	②	③	④	⑤
6. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック（対応・意見・評価など）をしていた。	①	②	③	④	⑤
7. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
8. テキストや授業資料は適切で分かりやすかった。	①	②	③	④	⑤
9-1.（講義・演習科目の場合）板書やスライド資料（パワーポイントなど）は適切で分かりやすかった。 9-2.（実技・実験・実習科目の場合）教員による実演や実習等の説明は分かりやすかった。	①	②	③	④	⑤
10. 教員の授業に対する熱意を感じた。	①	②	③	④	⑤
11. 教員は授業の準備を十分にしていた。	①	②	③	④	⑤
12. 教員は学生がマナーを守るよう指導していた。	①	②	③	④	⑤
13. クラス全体が集中して学べるように教員が指導していた。	①	②	③	④	⑤
14. 教員はよりよい授業となるよう授業方法の改善に取り組んでいた。	①	②	③	④	⑤
15. （該当者のみ回答） 遠隔授業では教員は授業ツール（Classroom・Meet・Zoomなど）を適切に活用していた。	①	②	③	④	⑤

II-② 教育環境

1. （該当者のみ回答） 対面授業では適切なICT環境（Wi-Fi、PCなど）が整っていた。	①	②	③	④	⑤
2. （該当者のみ回答） 対面授業では適切な教室環境（空調、プロジェクター、机の配置など）が整っていた。	①	②	③	④	⑤

●以下の項目について、該当するものを選んでください。

III 授業を通して得られたこと

	そ う 思 わ ない	あ ま り そ う 思 わ ない	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
1. この分野の専門的知識や技能が身についた。	①	②	③	④	⑤
2. 学習力や思考力が高まった。	①	②	③	④	⑤
3. 知的好奇心や探究心が高まった。	①	②	③	④	⑤
4. 考え方や社会的視野が広がった。	①	②	③	④	⑤
5. コミュニケーションする力（他人の意見を聞き、自分の意見を適切に表現する力）が高まった。	①	②	③	④	⑤
6. シラバスに明記されている本授業における到達目標（知識、技能、態度等）を達成できた。	①	②	③	④	⑤
7. これから生きていくうえで役立つと思う。	①	②	③	④	⑤
8. 全体として、この授業を受けて満足した。	①	②	③	④	⑤

IV 自由記述（この授業の良かった点、悪かった点、意見、改善点等を自由にお書きください。なお、書かれた内容は授業改善に活用します。）

教学改善のための授業評価アンケート (ピアノ科目)

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

このアンケートは、教学の改善充実を図ることを目的にしています。調査の回答内容が成績に影響することはありません。この科目のこれまでの授業を振り返り、該当する回答選択肢にマーク（数字を塗り潰し）してください。

学籍番号の記入は、提出の有無や提出間違いの確認のためであり、回答者を特定するためではありません。学籍番号の情報は担当教員には提供されません。

<学籍番号> (二重枠線内に学籍番号(数字7桁)を記入し、同じ番号の枠内をマークしてください。)

①	①	①	①	①	①	①	←0
②	②	②	②	②	②	②	←1
	③	③	③	③	③	③	←2
	④	④	④	④	④	④	←3
	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	←4
	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	←5
	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	←6
	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	←7
	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	←8
							←9

[記入上の注意]

① 原則としてHB以上の鉛筆等を使用し、該当番号の枠内を濃く完全に塗り潰してください。

② 訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。

③ 回答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

◀良い例▶ ● ▶悪い例▶ ○ ● ◐ ◑ ◒ ◓

授業科目名	
教員名	
曜日・時限	曜 限

大学	① 経営学部	② 芸術学部	③ 教育学部	④ 国際観光学部	⑤ データサイエンス学部	⑥ 看護学部
大学院	⑦ 教育学研究科					
短大	⑧ 生活デザイン学科	⑨ 調理・製菓学科 調理コース	⑩ 調理・製菓学科 製菓コース	⑪ 調理・製菓学科 フードコーディネートコース	⑫ 栄養学科	⑬ 幼児教育学科
	⑭ 観光学科	⑮ グローバルコミュニケーション学科	⑯ 経営会計学科			

I 授業への学生の取り組み

1. この授業への出席(参加)状況	① 4回以上欠席 (4回以上不参加)	② 3回欠席(3回不参加)	③ 2回欠席(2回不参加)
	④ 1回欠席(1回不参加)	⑤ 全回出席(全回参加)	
2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	① そう思わない	② あまりそう思わない	③ どちらともいえない
	④ ややそう思う	⑤ そう思う	
3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたりの平均学習時間(授業時間を除く)	① 1時間未満	② 1~2時間未満	③ 2~3時間未満
	④ 3~4時間未満	⑤ 4時間以上	
4. この授業の内容は私にとって	① 簡単すぎた	② やや簡単だった	③ 適切だった
	④ やや難しかった	⑤ 難しすぎた	
5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	① 全く活用しなかった	② あまり活用しなかった	③ どちらともいえない
	④ 活用した	⑤ とても活用した	

●以下の項目について、該当するものを選んでください。

II 授業内容と授業の進め方

	そう 思わ ない	あ ま り 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	①	②	③	④	⑤
2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
4. 教員は学びを深める方法(授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など)を教えていた。	①	②	③	④	⑤
5. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック(対応・意見・評価など)をしていた。	①	②	③	④	⑤
6. 教員は各回の授業のテーマや目標、グレード全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤

~裏面も回答してください~

